



〒113-0033 東京都文京区本郷2丁目37-6 稲毛屋ビル504
日本神経科学学会

TEL: 03-3813-0272 FAX: 03-3813-0272
E-mail jnss@mb.newweb.ne.jp

第65回日本神経科学学会理事会報告

日時:2004年9月20日(月) 16時-20時

出席:小幡邦彦会長、津本忠治庶務理事、水野昇会計理事、村上富士夫広報担当理事(第27回大会大会長)、岡野栄之理事、御子柴克彦理事、丹治順理事、宮下保司理事(第28回大会大会長)、辻省次理事、伊佐正理事、大隅典子理事、川人光男理事、西野仁雄理事(第26回大会大会長)

欠席:金澤一郎理事、遠山正彌理事、中西重忠理事、廣川信隆理事、三品昌美理事、岡本仁 IBRO-APRC 理事

報告事項

1. 庶務報告(津本庶務理事): 2004年9月10日時点での会員構成の状況が報告された(資料1-1、新入会員名は資料1-2参照)。会員総数は前回に比して100名余増加し約4,300人となった。今後、さらに増加することを期待している。
2. 学会事務センター破産問題報告(小幡会長):小幡会長より学会事務センター破産問題についての報告がなされた(本ニュースの他記事参照)。
3. 会計報告(水野昇会計理事):2004年8月31日までの中間報告がなされた。上述の破産問題による損害は予備費等によってカバーできる予定であるとの報告があった(資料2)。

目次

第65回日本神経科学学会理事会報告	1
平成16年度日本神経科学学会総会報告	11
正会員の方は理事選挙の投票を	12
日本事務センターに対する債権について	12
第28回日本神経科学大会(Neurosci 2005)のご案内	12
第28回日本神経科学大会シンポジウム公募のご案内	13
神経科学学会奨励賞の募集について	14
研究室紹介"線虫は考える"	16
シンポジウム・研究会のお知らせ	17
研究助成	22
公募	23
その他	26
編集後記	27

4. 第27回大会報告(村上富士夫第27回大会大会長):Neuro2004として開催された第27回日本神経科学学会大会・第47回神経化学学会大会合同大会の開催状況が報告された(資料3)。

5. 第28回大会準備報告(宮下保司第28回大会大会長):2005年7月26日-28日開催予定の第28回大会の準備状況について報告がなされた。参加登録費を若干値上げするが、懇親会費はできるだけ安くし、若手と招待講演者を含むシニア研究者との交流を促進する案等が報告され了承された(資料4)。

6. 第29回大会準備報告:欠席の木村實大会長に代わり津本庶務理事が準備状況を報告した。日時は平成18年7月19日(水)-21日(金)で、京都国際会議場で開催する予定である。組織委員会、プログラム委員会、実行委員会のメンバーを決め、また幹事会は木村實(京都府立医大医学研究科、神経生理学)、河田光博(京都府立医大医学研究科、生体構造学)、中川正法(京都府立医大医学研究科、神経内科学)、伏木信次(京都府立医大医学研究科、分子病態病理学)各教授よりなるとの報告がなされた。

7. Neuroscience Research 関係:津本忠治NSR編集主幹より以下の報告がなされた。

1)2004年1月より8月末までの投稿数は191篇であった。このまま推移すれば年間300篇近くになり増加傾向が続いている(2001年は173篇、2002年は245篇、2003年は262篇であった)。191篇のうち140篇は電子投稿であったが、残りは郵送投稿であり、郵送による投稿受付も当面は続ける。入稿原稿の52%は海外からのものである。海外からの原稿は中国、韓国からが比較的多いが、米国、ドイツ、イタリア、ブラジル等26カ国にまたがる。

2)採択率は50%以下であるが、海外からの原稿が特に良くない傾向がみられる。

3)2003年のImpact Factorは2.200と大幅に改善した(2002年は1.812であった)。2002年にNSRに掲載された論文が他誌に良く引用されており、また2003年にも良い論文が多数NSRに掲載されているので来年はさらに上昇すると予想される。

4)NSRの会計は、学術振興会からの科学研究費学術定期刊行物の補助金が平成16年度はほぼ予定どおり認められたので順調に推移している。

5)2003年のNSR優秀論文賞に3篇を選出し、持ちまわり理事会で承認を得た(本ニュース、他記事参照)

6)Elsevierとの契約案に関して前回理事会で承認

を得たが、その後大会抄録のCD-ROMの作成権等について交渉を続け、妥当と思われる回答を得たので、合意に達した。新しい契約は2005年から適用される予定である。

8. International Brain Research Organization (IBRO) 関係:欠席の岡本仁 IBRO Asia-Pacific Regional Committee (APRC) 委員に代わり津本委員(2004年7月より委員として参加)より報告があった。委員長のY.S.Chan教授(香港)より18万米ドルの予算要求をAPRCからIBRO本部へ提示するという案とその内訳がメールで各委員に提案されたが、IBRO Schoolに対する経費が多すぎるので、域内の学術集会(例えば、日本神経科学学会大会)に参加する若手研究者に対する旅費のサポートを増やすよう修正要求を出したこと等が報告された。11月27日にIBRO-APRC委員会が日本で開催されるので、この点を含めた詳細な報告は次号のニュースに掲載し、次回理事会でも報告される予定となっている。

9. Federation of Asian-Oceanian Neuroscience Societies (FAONS) 関係:津本FAONS財務理事より2004年5月17日にテヘランで開かれたFAONS理事会について、以下の報告がなされた。理事会と同時にテヘランで開催された第2回FAONSシンポジウムには16ヶ国から約300名の参加があった。若手の参加者のサポート等のためにFAONSの予算から23900米ドルが支出された。2006年には香港で第4回FAONS大会(FAONS 4th Congress)が予定されている。また、2008年は第3回FAONSシンポジウムの年になるが、このホスト国はこれから募集する予定である。

10. 各種学術集会等に対して協賛・後援を行った旨、津本庶務理事より報告があった。

11. 小幡会長より下記の方を研究助成に推薦した旨報告があった。

第21回井上学術賞(1学会より1名)

狩野方伸(金沢大学医学系研究科)

第5回東レ科学技術研究助成(1学会より2名以内)

柚崎通介(慶応大学医学部)、

尾藤晴彦(東京大学医学系研究科)

審議事項

1. 理事改選について:小幡会長より本年7月15日発行号で会員に通知した理事候補者募集の結果推薦された候補者、及び指名委員会推薦候補者のリストが提示されそれに関して説明があった。審議の結果この候補者リストを承認した。

2. 日本神経科学学会名誉会員の推挙について:小幡

会長より以下の会員の名誉会員への推挙と業績等の紹介があり、全員を名誉会員として総会に提案することとなった。

推挙された会員 (50 音順、敬称略)

大村裕、佐野豊、永津俊治、濱清、本郷利憲

3. 時実賞選考委員会委員 (2005-2006) の改選について:小幡指名委員会委員長より新委員の推薦があり、原案を承認した。

4. 学会業務の変更、電子化について:村上理事より電子化をさらに進めるとの説明があった。

5. 第 30 回大会について:津本庶務理事から田中啓治理化学研究所脳科学総合研究センター副所長を第 30 回大会の大会長にとの推薦があった。なお、この大会は神経化学会との合同大会となるが、この件を含めて田中氏の了解を得ているとの説明があり、審議の結果、同氏を第 30 回大会の大会長に決定した。

6. 男女共同参画学協会連絡会について:大隅理事より当連絡会について説明があり、本学会として参加すること及び連絡委員になっていただくよう平田たつみ会員に依頼することを決定した。

資料 1-1

日本神経科学学会会員構成

(2004年9月10日)

	正会員	学生会員
1 分子・細胞神経科学	1825 (96)	267 (121)
2 システム神経科学	1360 (48)	214 (90)
3 臨床・病態神経科学	482 (13)	24 (11)
4 パネル不明	114 (1)	4 (2)
合計	3781 (158)	509 (224)
外国人会員	1	
賛助会員 (1)	3	
賛助会員 (2)	15	
名誉会員 (名誉会長を含む)	9	
全会員数	4,318	

() 内は新会員

退会 正会員 154 名 学生会員 6 名 合計 160

移動 学生会員→正会員 2 名

移動 正会員→学生会員 29 名

資料 1-2

新会員リスト

正会員

パネル 1、分子・細胞神経科学 96 名

浅島 朋子 東北大学 大学院薬学研究科

新家 瑠奈 理化学研究所脳科学研究センター

有竹 浩介 (財) 大阪バイオサイエンス研究所
分子行動生物学部門

池上 健 慶應義塾大学 医学部

池田 水脈 日本歯科大学 歯学部生理学講座

伊佐 かおる 生理学研究所 発達生理

石井 愛子 大正製薬株式会社医薬研究所
安全性研究室

石井 賢 慶應義塾大学 医学部

石垣 診祐 名古屋大学 医学部

伊田 みちる 愛知県心身障害者コロニー発達障害
研究所 周生期学部

市田 成志 近畿大学薬学部

井上 英二 (株) カン研究所

井上 華 生理学研究所 機能協関部門

岩佐 峰雄 星城大学リハビリテーション学部

榎本 秀樹 理化学研究所 発生・再生科学総
合研究センター

大井 康浩 大阪大学 大学院歯学研究科

大河内 謙太郎 大阪大学 大学院生命機能研究科
(株) カン研究所

大塚 稔久 九州大学生体防御研究所 脳機
能制御学分野

荻原 郁夫 理化学研究所 脳科学総合研究セ
ンター

奥村 雅代 奈良先端科学技術大学院大学
バイオサイエンス研究科

落合 和 熊本大学大学院医学薬学研究部

片野坂 公明 名古屋大学 環境医学研究所

加藤 (玉水) しおり 東京都臨床医学総合研究
所 細胞生理学

金村 米博 産業技術総合研究所 セルエンジ
ニアリング研究部門

上川内 あづさ 東京大学分子細胞生物学研究所

河野 洋治 名古屋大学 大学院医学研究科

北村 直樹 北海道大学 大学院獣医学研究科

日下部 岳広 兵庫県立大学大学院生命理学研究科

窪田 寿彦 浜松医科大学 医学部

見学 美根子 理化学研究所 脳科学総合研究セ
ンター

小出 剛 国立遺伝学研究所マウス開発研究室
黄 樹明 理化学研究所脳科学総合研究セン
ター 神経蛋白制御研究チーム

國府田 正雄 千葉大学 大学院医学研究院 整
形外科学

小島 比呂志 玉川大学 学術研究所

児玉 恵理 産業技術総合研究所 セルエンジ
ニアリング研究部門

小林 秀昭	東北大学 大学院医学系研究科	前田 卓哉	慶應義塾大学医学部 解剖学教室
小藤 剛史	杏林大学 医学部	松岡 正明	慶應義塾大学 医学部
逆瀬川 裕二	国立精神神経センター神経研究所 疾病研究第7部	丸淵 茂樹	東京医科歯科大学難治疾患研究所
下津 京子	鹿児島大学大学院 医歯学総合 研究科	安田 誠	富山医科薬科大学薬学部
下畑 充志	理化学研究所 脳科学総合研究セ ンター	山口 浩雄	九州大学生体防御医学研究所 脳機能制御学分野
鈴木 諭	九州大学 大学院医学研究院	山崎 智彦	産業技術総合研究所 セルエンジ ニアリング研究部門
須原 和歌子	東京大学医科学研究所神経情報シグ ナル	山崎 真弥	新潟大学 脳研究所細胞神経生物学 分野
高森 康晴	関西医科大学 解剖学第一講座	横山 一剛	東京大学 医科学研究所
田川 一彦	東京医科歯科大学難治疾患研究所	吉岡 昇	帝京大学 医学部
田辺 康人	(株)三菱化学生命科学研究科	吉田 一之	宇都宮大学ベンチャービジネスラボ ラトリー
谷垣 健二	滋賀県立成人病センター研究所	吉田 道生	Dept.of Neurobiol., Pharmacol.& Physiol., Univ.of Chicago
田谷 真一郎	名古屋大学 大学院医学系研究科	吉原 誠一	理化学研究所脳科学総合研究セン ターシナプス分子機構研究チーム
俵田 真紀	(株)カン研究所	吉水 孝緒	大正製薬株式会社 医薬研究所 創薬薬理研究室
土井 知子	京都大学 大学院理学研究科	吉本 真	大正製薬株式会社医薬研究所 標的分子研究室
得丸 博史	徳島文理大学香川薬学部 創薬学科	米澤 朋子	岡山大学 大学院医歯学総合研究科
中澤 敬信	東京大学医科学研究所 癌細胞シグ ナル研究分野	李 洪鵬	東京都神経科学総合研究所 発生 形態研究部門
中島 欽一	奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科	渡邊 光太	国立精神神経センター神経研究所疾 病研究第7部 CREST・JST
中田 和子	東京都神経科学総合研究所	渡辺 修二	岩手医科大学 医学部
中村 隆弘	生理学研究所	渡辺 すみ子	東京大学医科学研究所基礎医科学部 門
中矢 正	北海道大学 大学院	渡邊 正知	徳島文理大学 香川薬学部
波平 昌一	熊本大学 発生医学研究センター	XU LI	関西医科大学
成田 奈緒子	筑波大学 基礎医学系 解剖学	SOOKSAWATE THONGCHAI	Fac.of Pharmaceutical Sci.,Chulalongkorn Univ.
成田 正明	筑波大学 基礎医学系	パネル2、システム神経科学 48人	
西原 永潤	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科		
西脇 優子	理化学研究所	安部 博史	宮崎大学医学部精神医学講座
橋本 祐一	慶應義塾大学医学部	新井 秀明	東京大学大学院総合文化研究科
長谷川 明子	国立精神・神経センター神経研究所 微細構造研究部	池田 滋	日本たばこ産業(株) 医薬総合研究 所 研究管理部
八田 公平	理化学研究所 発生・再生科学総 合研究センター	池田 寛子	福島県立医科大学
服部 浩史	杏林大学 医学部	井上 和生	京都大学大学院農学研究科
服部 祐紀	大阪大学大学院生命機能研究科	井上 剛	生理学研究所
花村 健次	群馬大学大学院医学系研究科 高次細胞機能学	嬉 正勝	秋田県立脳血管研究センター
平田 務	理化学研究所 発生・再生科学総 合研究センター	大下 修弘	徳島大学病院
平枋 正博	キッセイ薬品工業(株)	大森 敏明	理化学研究所脳科学総合研究セン ター脳数理研究チーム
古川 貴久	(財)大阪バイオサイエンス研究所		
星野 将隆	東京医科歯科大学難治疾患研究所		
八月朔日泰和	山形大学 医学部		
本間 光一	帝京大学薬学部病態生化学教室		
本間 典子	東京大学 大学院医学系研究科		

岡本 雅子	食品総合研究所食品工学部製造工学研究室	山口 陽子	独立行政法人理化学研究所脳科学研究センター
柿村 順一	広島大学大学院医歯薬学研究科	山本 浩一	大阪大学大学院医学系研究科
川辺 光一	大阪市立大学大学院文学研究科	和田 康弘	大阪市立大学医学研究科
北川 純一	日本大学歯学部生理学教室	渡辺 秀典	玉川大学工学部
久代 恵介	京都大学大学院人間・環境学研究科共生人間学専攻	王 大勇	名古屋大学大学院医学系研究科医療薬学・医学部附属病院薬剤部
小崎 寛子	国立印刷局東京病院耳鼻科	TOBIAS A NYBERG	N T T 基礎研究所
小林 良子	東京都立大学理学研究科	Neal Hessler	理化学研究所脳科学総合研究センター
齋藤 敏之	(独) 農業生物資源研究所 (池の台) 生体機能研究研究グループ		
佐藤 直行	理化学研究所脳科学総合研究センター	パネル3、臨床・病態神経科学 13名	
下野 健	アルファメッドサイエンス (株)	岡澤 均	東京医科歯科大学難治疾患研究所
下ノ村 和弘	大阪大学大学院工学研究科電子工学専攻八木研究室	小野 剛	ボバース記念病院
鈴木 勉	星薬科大学薬品毒性学教室	片山 規央	羽金病院
Sun Pei	理化学研究所脳科学総合研究センター認知機能表現研究チーム	角山 圭一	大阪大学大学院医学系研究科未来医療開発専攻
高瀬 堅吉	横浜市立大学大学院医学研究科神経内分泌学部門	菊山 裕貴	大阪医科大学 神経精神医学教室
檀 一平太	食品総合研究所食品工学部製造工学研究室	櫻井 隆	理化学研究所 脳科学総合研究センター
筒井 雄二	福島大学生涯学習教育研究センター	佐藤 陽	理化学研究所 播磨研究所
坪 泰宏	玉川大学工学部	島添 隆雄	九州大学大学院薬学研究院
永井 拓	金沢大学大学院自然科学研究科病院薬学研究室	高御堂 祥一郎	関西医科大学 解剖学第一講座
林 篤正	久留米大学医学部	棚野 晃秀	関西医科大学 解剖学第一講座
原 衣利奈	理化学研究所脳科学総合研究センター	中川 正法	京都府立医科大学神経病態制御学
平田 真一	熊本大学大学院医学薬学研究部	林 成人	高砂市民病院
平田 智秋	理化学研究所脳科学総合研究センター	藤原 範子	兵庫医科大学 生化学
藤井 直敬	独立行政法人理化学研究所 脳科学総合研究センター	パネル不明	1名
星野 真人	理化学研究所脳科学総合研究センター	古川 一	大阪府立大学大学院農学生命科学研究科
細谷 俊彦	理化学研究所脳科学研究センター	学生会員	
牧野 悌也	東北大学 電気通信研究所	パネル1、分子・細胞神経科学 121名	
松元 まどか	理化学研究所脳科学総合研究センター認知機能表現研究チーム	青木 一洋	大阪大学微生物病研究所 腫瘍ウイルス分野
三浦 治己	東北大学 電気通信研究所	青木 令奈	横浜市立大学大学院医学研究科分子薬理神経生物学講座
水原 啓暁	理化学研究所脳科学総合研究センター	足立 直子	神戸大学バイオシグナル研究センター
最上 嗣	生理化学研究所	精松 昌彦	熊本大学発生医学研究センター
森山 未央	(株) 資生堂リサーチセンター	井岡 真基	関西医科大学 解剖学第一講座
安田 達弘		池田 大祐	東京大学遺伝子実験施設
		池田 隆光	東京大学大学院薬学系研究科

石井 寛高	東京大学大学院総合文化研究科	究部門
石丸 直樹	富山医科薬科大学 薬学部	佐度 恵 東京農業大学 動物分子生物学研究室
伊早坂 智子	大阪大学大学院生命機能研究科	
伊藤 慎悟	東北大学大学院薬学研究科	佐藤 理行 新潟大学医学部 整形外科教室
伊藤 博隆	名古屋市立大学大学院医学研究科	杉村 薫 京都大学 ウイルス研究所
糸総 るり香	東京薬科大学 大学院生体高次機能学研究室	鈴木 崇之 東京薬科大学 生命科学部
		鈴木 春野 奈良女子大学大学院人間文化研究科
井上 由理子	九州大学システム生命科学府	関 信亮 東京農業大学動物分子生物学研究室
今西 孝至	近畿大学薬学部生物化学研究室	園木 康大 東京大学 大学院総合文化研究科
入江 智彦	京都大学大学院医学研究科	高岡 由佳 神戸大学 大学院医学系研究科
宇宿 智裕	京都府立医科大学 解剖学教室 生体構造科学部門	高村 明孝 鳥取大学医学部 機能再生医科学専攻
海津 正賢	大阪大学医学系研究科分子遺伝学 生命機能・時空生物学講座	託見 健 京都大学霊長類研究所
		立川 哲也 理化学研究所脳科学研究センター 記憶学習機構研究チーム
江角 重行	大阪大学大学院生命機能研究科	
王 新	信州大学大学院医学研究科加齢適応 医学研究系	田中 千貴 北里大学大学院 医療系研究科
		田中 大介 大阪大学大学院 生命機能研究科
大河原 剛	自然科学研究機構基礎生物学研究所 感覚情報処理部門	俵山 寛司 東北大学 加齢医学研究所
		段 由規彦 九州大学生体防御医学研究所 脳機能制御学分野
大谷 義昭	神戸大学 大学院医学系研究科	
大友 隆之	東京薬科大学薬学部病態生化学教室	張 静萍 信州大学大学院医学研究科加齢適応 医学研究系
岡田 拓也	筑波大学 大学院	
柿本 哲宏	京都大学 大学院	張 楠楠 京都大学 大学院薬学研究科
梶谷 康介	九州大学大学院医系学府脳機能制御 学分野	釣木澤 朋和 東京大学 大学院
		土井 宏 横浜市立大学大学院医学研究科 神経内科学
兼清 貴久	大阪大学医学部	
金蔵 孝介	慶應義塾大学 医学部	年綱 志保 大阪大学 大学院生命機能研究科
上窪 裕二	大阪大学 大学院生命機能研究科	戸塚 祐介 東京大学 大学院
木田 泰之	東北大学加齢医学研究所	富岡 征大 東京大学 遺伝子実験施設
金 貞娥	東京大学 大学院薬学系研究科	永井 久美子 名古屋大学大学院医学系研究科
木村 俊秀	名古屋大学大学院医学系研究科	中臺 武人 創価大学大学院 工学研究科
木村 梨絵	東京大学 大学院薬学系研究科	中野 良美 名古屋市立大学大学院薬学研究科 病態生化学分野
葛巻 直子	星薬科大学薬品毒性学教室	
倉本 恵梨子	京都大学 大学院医学研究科	成塚 裕美 東京大学 大学院医学系研究科
高祖 秀登	東京大学医科学研究所染色体制御分 野	新堀 洋介 三菱化学生命科学研究所
		西尾 崇 名城大学大学院 総合学術研究科生 体機能制御学
興水 洋平	東邦大学大学院理学研究科生物分子 科学専攻	丹羽 麻由香 創価大学大学院 工学研究科
小杉 達郎	北海道大学大学院情報科学研究科学 専攻生体システム工学講座	野中 美応 京都大学 大学院理学研究科
		野村 泉美 京都大学 大学院医学研究科
後藤 純	東京大学 医科学研究所	長谷川 園子 大阪大学大学院 生命機能研究科
小西 博之	大阪市立大学大学院医学研究科	川口 将史 大阪大学大学院 生命機能研究科 八木研究室
駒切 洋	北海道大学大学院獣医学研究科	
小山 晶子	創価大学大学院 工学研究科	羽田 幸祐 東京大学 大学院理学系研究科
小山 隆太	東京大学 大学院薬学系研究科	林 悠 東京大学大学院 理学系研究科
斎藤 文典	信州大学大学院医学研究科加齢適応 医学研究系	原 大智 富山医科薬科大学 薬学部
		原田 周 京都大学 大学院生命科学研究科
佐々木 哲也	基礎生物学研究所種分化機構第一研	半田 高史 日本福祉大学大学院 情報・経営開

	発研究科		
東 智広	三重大学 医学部	青木 麗	九州工業大学 大学院生命体工学研究科
平石 敬三	長崎大学 大学院医歯薬総合研究科 医療科学専攻	浅利 知輝	東京大学大学院医学系研究科
深谷 泰亮	東海大学 開発工学部	天野 賢	浜松医科大学 医学部
福島 穂高	東京農業大学動物分子生物学研究室	雨森 智子	北海道大学大学院 医学研究科
福田 絵美	大阪大学大学院 生命機能研究科	池浦 佐和子	久留米大学 医学部
藤吉 正哉	東北大学 大学院薬学研究科	石井 聡	大阪市立大学 大学院医学研究科
朴 英善	新潟大学脳研究所基礎神経科学部門 分子神経生物学分野	井戸 喜英	九州工業大学 大学院生命体工学研究科
堀江 健生	兵庫県立大学大学院生命理学研究科	稲場 直子	産業技術総合研究所 脳神経情報
松木 正尋	東京大学 遺伝子実験施設	岩下 成人	滋賀医科大学 麻酔科
松下 雄一	創価大学工学部 K205	岩元 わかな	山口大学 農学部
松田 明大	東北大学 大学院薬学研究科	植田 禎史	京都大学大学院 医学研究科
松永 昌宏	広島大学 総合科学部	宇賀 美奈子	筑波大学大学院
松本 英之	東京大学 大学院医学系研究科	梅田 和昌	大阪大学大学院 基礎工学研究科 生命工学分野
松本 浩	大阪大学 歯学部		
松本 良平	京都府立医科大学大学院医学研究科	大澤 一郎	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科老化制御学系
丸山 泰	筑波大学 生命環境科学研究科	大谷 めぐみ	京都大学大学院
三浦 会里子	北海道大学 大学院医学研究科	大西 貴子	川崎医療福祉大学 大学院医療 技術学研究科
三木 崇史	京都大学 大学院工学研究科		
水島 敏行	兵庫医科大学 解剖学第二講座	大場 健嗣	東北大学大学院生命科学研究科
三村 明史	自然科学研究機構統合バイオサイエ ンスセンター	大原 慎也	東北大学大学院生命科学研究科
宮川 和也	星薬科大学 薬品毒性学教室	奥原 啓輔	広島大学大学院先端物質科学研究 科
宮竹 真由美	星薬科大学		
村田 康信	京都大学 大学院理学研究科	尾崎 隆	東京大学大学院新領域創成科学研 究科
村山 奈美枝	岡崎統合バイオサイエンスセンター 生命環境研究領域	オスクティエティア ダイアナ	日本歯科大学 新潟歯学部生理学講座
毛利 彰宏	名古屋大学大学院医学系研究科	掛川 晃	信州大学医学部医学科
望月 洋明	筑波大学 生命環境科学研究科	加藤 規寛	山口大学 農学部
森下 博文	大阪大学大学院生命機能研究科 八 木研究室	加藤 良子	東京大学大学院薬学系研究科
森島 寿貴	豊橋技術科学大学物質工学系専攻	川崎 敏生	東北大学大学院情報科学研究科
森田 麻	横浜市立大学大学院医学研究科 分 子薬理神経生物学講座	北岡 志保	京都大学医学研究科
森山 麻衣子	九州大学 大学院医学研究院	金 光華	大阪市立大学 大学院医学研究科
山内 健太	大阪大学大学院生命機能研究科	菊池 修	東北大学大学院情報科学研究科
山内 祥豪	高知大学 医学部	古賀 浩平	九州大学 大学院医学研究院
山崎 大樹	名古屋市立大学大学院薬学研究科 細胞分子薬効解析学分野	小金澤 紀子	東北大学大学院生命科学研究科
山田 真弓	京都工芸繊維大学応用生物学科	近藤 あき	京都大学大学院
山田 隆二	東京大学大学院薬学系研究科	眞田 尚久	大阪大学大学院基礎工学研究科
吉田 さちね	筑波大学大学院	澤田 香織	東京都神経科学総合研究所
吉村 武	名古屋大学大学院医学系研究科	漆川 美穂	山口大学 農学部
渡辺 俊	東京理科大学大学院理工学研究科	芝崎 真裕	星薬科大学 薬品毒性学教室
		島 麻子	日本大学歯学部生理学教室
		白畑 孝明	東京大学大学院薬学系研究科
		鈴木 郷	山口大学 農学部
		鈴木 千里	東北大学大学院生命科学研究科
パネル2、システム神経科学 90名			

鈴木 雅美	星薬科大学 大学院	松井 航	東北大学大学院生命科学研究科
関 義正	千葉大学文学研究科	松富 智哉	広島大学大学院医歯薬総合研究科
千 太哲	浜松医科大学 医学部	三浦 佳二	理化学研究所 脳科学総合研究センター 脳数理研究チーム
全 紅	横浜市立大学大学院医学研究科 神経内分泌学	三好 歓	星薬科大学 薬品毒性学教室
高浦 加奈	慶應義塾大学 理工学研究科	村上 浩文	大阪大学大学院生命機能研究科
高橋 邦行	新潟大学脳研究所システム脳 生理学分野	村田 弓	独立行政法人 産業技術総合研究所 脳神経情報研究部門
田口 徹	名古屋大学大学院医学系研究科	茂泉 俊次郎	順天堂大学医学部
竹田 敏幸	山形大学大学院理工学研究科	安田 正治	生理学研究所
田中 靖史	神戸大学医学部	矢田 寛樹	上智大学 大学院理工学研究科
玉江 昭裕	九州大学大学院医学研究院	柳田 信也	東京都立大学 大学院
柄本 昌子	東京大学大学院薬学系研究科	山田 義之	東京大学大学院人文社会系研究科
津布久 崇	北海道大学大学院 医学研究科	山本 哲也	京都大学大学院
鄭 泰星	広島大学大学院医歯薬総合研究科	横山 悟	東北大学大学院国際文化研究科
土居 節	同志社大学大学院 工学研究科	渡邊 慶	京都大学大学院
土井 隆弘	大阪大学大学院生命機能研究科 生命機能専攻	渡辺 諭史	東北大学 医学系研究科
富田 和秀	群馬パース学園短期大学理学療法 学科	パネル3、臨床・病態神経科学 11名	
富田 裕二	九州工業大学 大学院生命体工学 研究科	加藤 尚子	名古屋大学大学院 医学系研究科
永井 秀治	上智大学大学院理工学研究科	嶋津 奈	東京医科歯科大学 大学院
永田 恵子	奈良女子大学大学院人間文化研究 科	宗 謙次	長崎大学 大学院医歯薬総合研究 科医療科学専攻
中本 千泉	広島大学大学院医歯薬総合研究科	宋 明橋	群馬大学 大学院医学系研究科
南雲 康行	星薬科大学 薬品毒性学教室	谷口 豪	東京医科歯科大学 大学院
西島 康夫	上智大学大学院理工学研究科	谷口 真理子	大阪大学 大学院医学系研究科
丹羽 美苗	名古屋大学大学院医学系研究科	能智 緑弥	東京大学 大学院
野村 健介	慶應義塾大学 医学部	福山 哲広	信州大学 医学部
萩原 裕子	横浜市立大学大学院医学研究科 神経内分泌学	三守 和彦	東京大学 大学院薬学系研究科
橋本谷 祐輝	金沢大学大学院医学系研究科	山下 徹	岡山大学大学院医歯薬総合研究科
畠中 智子	兵庫教育大学 大学院連合学校教 育学研究所	吉本 祐子	鳥取大学医学部 脳神経内科
林 和子	筑波大学大学院人間総合科学研究 科	パネル不明 2名	
春田 雅之	鳥取大学医学部	高松 純一	昭和大学歯学部歯科補綴学教室
平野 真嗣	山口大学農学部	JEONG HYEON JEONG 東北大学 未来科学技術共 同研究センター	
福井 裕輝	京都大学医学研究科脳病態生理学 精神医学教室		
藤井 盛光	理化学研究所 脳科学総合研究セ ンター		
藤本 哲也	九州工業大学 大学院生命体工学 研究科		
藤原 寿理	東北大学大学院生命科学研究科		
古川 智範	浜松医科大学 医学部		
堀 由紀子	京都府立医科大学 大学院		

2004年度日本神経科学学会会計報告
(2004年1月1日～2004年8月31日)

		予算	執行済み	年度末見込み	備考
収 入	前年度繰越金	6,054,544	6,054,544	6,054,544	
	(事務センター)	(2898720)	(2898720)	(2898720)	
	(学会管理分)	(3155824)	(3155824)	(3155824)	
	会員入会金	900,000	1,161,000	1,251,000	
	正会員年会費	28,917,000	25,468,000	28,924,650	
	(事務センター)		(23849000)	(23849000)	
	(学会管理分)		(1619000)	(5075650)	
	学生会員年会費	1,225,500	1,324,000	1,500,000	
	(事務センター)		(688,000)	(688,000)	
	(学会管理分)		(636,000)	(812,000)	
	賛助会員年会費3万	81,000	60,000	60,000	
	(事務センター)		(60,000)	(60,000)	
	賛助会員年会費10万	1,350,000	1,400,000	1,400,000	
	(事務センター)		(140,000)	(1,400,000)	
	預金利息	10	30	30	
入	広告料	1,050,000	650,000	1,050,000	
	返済金	1,000,000		1,000,000	第27回大会貸付金
	雑収入		7,472	7,472	
収入計		40,578,054	36,125,046	41,247,696	
	(事務センター)		(28,895,720)	(28,895,720)	うち、学会に1750万円移管
	(学会管理分)		(7,229,326)	(12,351,976)	
支 出	1, 事業費				
	ニュース印刷費	1,800,000	1,255,842	1,900,000	
	ニュース発送費	3,300,000	2,048,499	3,080,000	
	大会補助金	2,000,000	2,000,000	2,000,000	
	NSR補助金	2,500,000	2,500,000	2,500,000	
	奨励賞賞金	400,000		500,000	
	優秀論文賞賞金	600,000		600,000	
	Travel Award賞金	1,000,000		300,000	
	会費分担金	2,340,000	800,389	2,300,000	*
	学術活動支援費	700,000	200,000	200,000	生理研, 市民公開講座
	国際交流費	100,000		0	
	調査宣伝費	350,000		350,000	弁護士顧問料等
	会員選挙経費	2,000,000	200,298	2,000,000	
	その他		300,000	300,000	第28回大会前渡金
	2, 管理費				
	事務センター業務委託費	4,500,000		0	
	事務員業務委託費	4,000,000	2,716,800	4,333,200	
	会議費	500,000	115,606	400,000	
	通信費	1,900,000	146,798	1,000,000	予算は事務センターからの通信を含む
	旅費・交通費	700,000	423,190	700,000	
	印刷費	500,000	22,260	300,000	
	備品・消耗品費	350,000	52,557	150,000	
	家賃	1,200,000	687,225	1,178,100	
	水道電話光熱費	300,000	87,962	140,000	
	設備費	600,000	377,937	600,000	FAXコピー機レンタル料等
	雑費	300,000	600	100,000	
	3, その他				
	事業費積立金	250,000	250,000	250,000	
	未収金(事務センター)		11,395,720	11,395,720	
	予備費	8,388,054	10,543,363	4,670,676	
支出計		40,578,054	36,125,046	41,247,696	

*IBRO(4,000\$), FAONS(2003年, 2004年度分担金2\$×正会員数)

資料3

第27回神経科学学会大会(合同大会)報告

会期 2004年9月21日-23日

会場 大阪国際会議場

応募演題数:

一般演題 1289 題 (ポスター1043 口演246)

シンポジウム 197 題(プレナリー3、特別講演3、
時実賞受賞講演1を含む)

計 1486 題

ランチョンセミナー : 10 題 (7 企画)

機器展示: 38 社 書籍販売: 9 社

事前参加登録:

一般 1330 人 学生 576 人 計 1906 人

懇親会:

事前登録 一般 191 人 学生 39 人 計 230 人

その他

1. 市民公開講座の実施: 日時 9月20日、講師 川人光男、養老孟司、武田雅俊
2. 国際化: 登録、抄録を英語化、抄録は和英併記
3. 抄録:CD-ROM 化し会員全員に配布
3. 途上国からの参加者にトラベルアワード 2 名 (各15万円)

資料4

2005年日本神経科学大会 準備状況

1. 会 期 平成17年(2005年)7月26日(火) - 28日(木)(7月25日は準備日)
2. 開催場所 パシフィコ横浜
会議センター棟(メインホール、301、302、303+304、503、501、502、その他控え室等) 展示ホールB(6700 m²)
3. 役 員 大会長 宮下保司(東京大学)
実行委員長 西川徹(東京医科歯科大学)
プログラム委員長 森憲作(東京大学)
4. Plenary lecture (PL): 4題

現在まで確定しているのは

Dr.Nikos Logothetis (Max Plank Institute)

Dr.Fred H.Gage (The Salk Institute)

Dr.Jeff W.Lichtman (Harvard University)

Dr.David A.Lewis (University of Pittsburgh)

シンポジウム: 約40セッション

一般口演: 100 - 150 題

ポスター: 700 - 850 題

ランチョン・セミナー: 10 題

機器、書籍展示: 80 社程度の予定

5. 参加費・抄録掲載費

会費徴収法 従来どおり

2005年大会での参加登録費(案)

登録方法	参加登録				懇親会	
	一般		学生		一般	学生
	会員	非会員	会員	非会員		
事前登録	¥12,000	¥14,000	¥2,000	¥3,000	¥3,000	¥1,500
当日登録	¥14,000	¥16,000	¥3,000	¥4,000	¥4,000	¥2,000

参考2:米国神経科学会(Society for Neuroscience)

2004年大会での参加登録費

	Registration				Social program
	Non-student		Student		
	Member	Nonmember	Member	Nonmember	
Advance	\$205.00	\$365.00	\$65.00	\$80.00	\$0.00?
On-site online	\$240.00	\$400.00	\$75.00	\$90.00	\$0.00?
On-site	\$250.00	\$410.00	\$80.00	\$100.00	\$0.00?

6. 印刷物・CD-ROM

基本的に2004年大会と同様

印刷物:プログラムと抄録は別の冊子にする。

・プログラム:日本語。プログラムには抄録は載せない。当日会場渡し。事務局が製作。

・CD-ROM:プログラム、抄録含む。検索機能付き。事前発送。

・印刷抄録:当日会場渡し。

7. 広報・ホームページ

広報:2004年大会プログラムに広告掲載済み

メールにて、第一回案内及び公募シンポジウム案内
送付済み

ホームページ:開設済み

URL:<http://www.congre.co.jp/neurosci2005/>学会ホームページ及び2004年大会ホームページに
リンクをはる予定

11. 高校生のための神経科学入門(仮称)を予定

12. 懇親会

できるだけ安くし、若手と招待講演者等のシニアな
研究者との交流を促進する。

平成16年度 日本神経科学学会総会報告

日時:2004年9月22日(水)11時45分-13時15分
会場:大阪国際会議場大ホール (Neuro2004 会場A
ホール)

議題

1. 小幡会長より開会の挨拶及び日本学会事務センター破産問題についての報告がなされた(本ニュースの他記事参照)。
2. 津本庶務理事より2004年9月10日時点での会員構成の状況が報告された(理事会報告資料1-1及び1-2参照)。
3. 水野昇会計理事より2004年8月31日までの会計中間報告がなされた(理事会報告資料2参照)。
4. 津本 Neuroscience Research (NSR) 編集主幹よりNSRの入稿状況、掲載論文の被引用状況等の報告がなされ、Elsevierとの新契約に関する説明があった。また、2003年のNSR優秀論文として以下の3論文を選定した旨報告があった。

T.Kitamura^a, M.Mishina^b and

H.Sugiyama^a. Enhancement of neurogenesis by running wheel exercises is suppressed in mice lacking NMDA receptor ϵ 1 subunit (Research Report) 47: 55-63, 2003. ^aKyushu Univ., ^b Univ of Tokyo

Toshio Kosaka^a and Katsuko Kosaka^a. Neuronal gap junctions in the rat main olfactory bulb, with special reference to intraglomerular gap junctions (Research Report) 45: 189-209, 2003. ^aKyushu Univ.

Kaoru Sekiyama^{ab}, Iwao Kanno^c, Shuichi Miura^c and Yoichi Sugita^a. Auditory-visual speech perception examined by fMRI and PET (Research Report) 47: 277-287, 2003. ^aNatl Inst Advanced Industrial Science and Technology, ^bFuture University-Hakodate, ^cAkita Res.Inst.Brain and Blood Vessels

5. 村上富士夫第27回大会大会長より第27回日本神経科学学会大会・第47回神経化学学会大会合同大会の開催状況が報告された(理事会報告資料3参照)。

6. 宮下保司第28回大会大会長より2005年7月26日-28日開催予定の第28回大会の準備状況について報告がなされた(理事会報告資料4参照)。

7. 平成16年末で任期を終了する現パネル理事の改選の手続き等について小幡会長より説明があった。

8. 欠席の木村實大会長に代わり津本庶務理事が京都で平成18年7月19日(水)-21日(金)開催予定の第29回大会の準備状況を報告した(理事会報告参照)。

9. 2007年(平成19年)の第30回大会の大会長は田中啓治理化学研究所脳科学総合研究センター副所長に決定したことが津本庶務理事より報告された。ついで田中脳科学総合研究センター副所長より挨拶があった。

10. 小幡会長より以下の会員の日本神経科学学会名誉会員への推挙と業績等の紹介があり、全員一致で承認された。

新名誉会員 (50音順、敬称略)

大村裕、佐野豊、永津俊治、濱清、本郷利憲

11. 時実利彦記念賞の選考経過について小幡選考委員長より報告があった(受賞者名は下記)。

12. 第4回日本神経科学学会奨励賞の選考経過について欠席の高橋良輔選考委員長に代わり小幡会長より報告がなされた(受賞者名は下記)。

総会に引き続き同会場において以下の賞の授賞式が行われた

1. 時実利彦記念賞 2004年度受賞者

松沢哲郎博士 (京都大学霊長類研究所教授)
受賞研究課題: チンパンジーの高次認知機能の実験的解析

2. 日本神経科学学会奨励賞 2004年度受賞者 (50音順)

大須理英子博士 ((株)国際電気通信基礎技術研究所・脳情報研究所)
研究課題「動的環境下での運動学習における高次認知機能の役割」

澤本和延博士（慶応義塾大学医学部）

研究課題「中枢神経系前駆細胞の可視化・分離・移植技術の開発と生物学的性質の解析」

中原裕之博士（理化学研究所・脳科学総合研究センター）

研究課題「理論と実験を融合したシステム神経科学研究」

橋本浩一博士（金沢大学大学院医学研究科）

研究課題「シナプス間競合による機能的神経回路形成に関する研究」

宮田麻里子 博士（自然科学研究機構・生理学研究所）

研究課題「中枢神経系における異種シナプスの相互作用機構」

(2)学会のセンターに対する負債(8/5現在)

2,668,475 円

内訳

i)業務委託費精算（月割按分） 1,876,000 円

ii)業務委託費以外（通信費、会誌等保管、処分料等）
799,475 円

(3)学会のセンターに対する債権 (1)－(2)

7,106,707 円

預り金前期繰越金

2,898,720 円

会費納入（1/31-8/5）

26,040,050 円

会費請求の経費、郵送料、発送手数料

-1,663,588 円

学会への送金

-17,500,00 円

残高（合計）(8/5, 破産日 8/17 のものと同じ)

9,775,182 円

なお、業務委託費（8/6-12/31）約 170 万円は事務センターへの支払いが不要になります。

8/6 以降に納入される会費は学会で受け取ります。

正会員の方は理事選挙の投票を

次期（2005-2007 年）理事会のパネル理事を選出するための選挙を行っています。有権者（正会員）の方は郵送した文書にしたがって投票をお願いします。締め切り 11 月 26 日（郵送必着）！！

日本神経科学学会選挙管理委員会

第 28 回日本神経科学大会 (Neurosci 2005) のご案内

大会長 宮下 保司(東京大学医学部)

実行委員長 西川 徹(東京医科歯科大学)

プログラム委員長 森 憲作(東京大学医学部)

来年の第 28 回日本神経科学大会(Neurosci 2005)

は、下記の予定でプレナリーレクチャーや多くの企画・公募シンポジウムの準備を進めております。特に公募シンポジウムでは広く皆様からの有意義なご提案をお待ちします。更に詳しいプラン・アクセス等は、ホームページ(<http://www.congre.co.jp/neurosci2005/>)を御覧ください。

みなとみらい線も開通して便利になった横浜にて開催されます第 28 回大会に、多数のご参加をお願いいたします。

記

会期：2005 年 7 月 26 日(火)－28 日(木)の 3 日間

会場：パシフィコ横浜(横浜みなとみらい)

プログラム概要

1. プレナリーレクチャー

日本事務センターに対する 債権について

日本学会事務センターの破産のともなう本学会の債権につき、破産管財人の指導をうけて、センターから引き渡された経理書類および預り金報告書にもとづいて以下のように 7,106,707 円と算出して、東京地方裁判所に届け出ました。

平成 16 年 9 月 29 日

日本神経科学学会

(1)預り金の帳簿残高＊(H16/8/17 現在)

9,775,182 円

Dr. Fred H. Gage (The Salk Institute)
"Neurogenesis in the Adult Mammalian Nervous System"

Dr. Jeff W. Lichtman (Harvard University)
"Monitoring Synapses in Fluorescent Mice"

Dr. Nikos K. Logothetis (Max-Planck Institute for Biological Cybernetics)
"Seeing and Perceiving: Phenomenology & Physiological Mechanisms"(仮題)

Dr. David A. Lewis (University of Pittsburgh)
"Cognitive Dysfunction in Schizophrenia: Pathogenetic Mechanisms and Pathophysiological Processes"

2. 企画および公募シンポジウム

公募シンポジウムを募集中です。具体的な応募方法は、本ニュース掲載の「第28回日本神経科学大会 シンポジウム公募のご案内」またはホームページ(<http://www.congre.co.jp/neurosci2005/>)を御覧下さい。

3. 一般口演とポスターセッション

2004年12月募集開始、2005年2月締め切りの予定です。募集概要は、上記ホームページを御覧下さい。

4. ランチョンセミナー、モーニングセミナー
企画募集中です。

5. 機器・書籍展示

6. 新企画 "高校生のための神経科学入門"(仮題)

学会運営に関するご提案を歓迎致します。お問い合わせは下記事務局までメールにてお知らせ下さい。

大会事務局： 株式会社コングレ
東京都千代田区麹町5-1 弘済会館ビル
e-mail: neurosci2005@congre.co.jp

第28回日本神経科学大会 シンポジウム公募のご案内

本ニュースの「第28回日本神経科学大会 (Neurosci 2005) のご案内」にありますように、来

年度の大会は7月26日(火)ー28日(木)の3日間、パシフィコ横浜(横浜みなとみらい)で行われることとなりました。

本大会ではシンポジウムを広く公募します。全体で30ー40題のシンポジウムを設け、そのうち約半数を公募シンポジウムに充てる予定です。詳細は、ホームページ(<http://www.congre.co.jp/neurosci2005/>)を御覧下さい。

公募受付期日：2004年12月1日まで。期日必着でお願いします。

シンポジウムの発表は原則として英語で行います。各シンポジウムは60分ー150分を予定しています。応募される方は、シンポジウムの

(1) タイトル

(2) 趣旨と意義

(3) オーガナイザー(2名)

(4) 予定しているシンポジスト

をA4用紙1枚におまとめの上、e-mail・ファックス・郵送のいずれかで、下記大会事務局担当者までお送り下さい。

応募いただいたシンポジウムをプログラム委員会で検討の上、内容が類似の場合には統合したシンポジウムをお願いすることがあること、また、多数の応募を戴いた場合、プログラム委員会による検討の結果やむを得ず、お断りせざるを得ない状況も考えられますので、採択に関しましては、プログラム委員会にご一任下さいますようお願い致します。

なお、シンポジウムの採択、統合、不採択につきましては、2005年2月上旬までにご通知致しますので、その結果を受けて、演題登録(全シンポジストの英文抄録)を演題登録受付期間中に行って下さい。

多くの意欲的なシンポジウムをご提案いただけることを願っております。

***** 申し込み先 *****

Neuroscience 2005 大会事務局
株式会社コングレ Congress Corporation
担当：中村 雅史
〒102-8481
東京都千代田区麹町5-1 弘済会館ビル
TEL 03-5216-5551, FAX 03-5216-5552
E-mail: neurosci2005@congre.co.jp

神経科学学会奨励賞の募集について

神経科学学会では、2005年の日本神経科学学会奨励賞の募集を開始しました。この奨励賞は、満37歳以下の若手研究者を対象としています。下記の内容をご参照の上、多数の方々にご応募くださることを期待しています。応募規定の詳細は、本号または学会ホームページを御覧下さい。

記

趣旨

1. 日本神経科学学会は、将来本学会で活躍することが期待される若手研究者を奨励することを目的として本奨励賞を設けました。本奨励賞は個々の論文を対象とするものではなく、申請者の研究実績、研究構想と発展性を評価して選考します。

2. 応募資格

3年以上の会員歴を有する満37歳以下(平成17年12月末日時点)の日本神経科学学会の会員を対象とします。受賞候補者は、原則として単名とします。

3. 表彰

日本神経科学学会大会において受賞者を表彰し、賞状及び副賞10万円を贈呈します。

応募方法

応募者は次の(1)～(5)の書類を各10部ご用意いただき、神経科学学会奨励賞選考委員会宛て(〒113-0033 本郷四郵便局留め 日本神経科学学会 山根 慶子)にお送りください。

(1)申請書(所定の様式に従い、日本神経科学学会会員(正会員に限る)による推薦のあるもの、様式はホームページからダウンロードできます)、(2)履歴書(受賞歴を含む)、(3)主要業績リスト、(4)申請課題に関する800字以内の抄録、(5)申請課題に関連した論文(3編以内)の別刷(印刷中の論文については校正刷りの写し)。

申込締切り 平成17年2月15日消印有効

以上

日本神経科学学会奨励賞規定

1. (目的)

日本神経科学学会は、顕著な研究業績を有するとともに、将来日本神経科学学会で活躍することが期待される若手研究者を奨励することを目的として日本神経科学学会奨励賞(以下、奨励賞という)

を設ける。奨励賞の英文表記は、Japan Neuroscience Society Young Investigator Award とする。

2. (対象)

3年以上の会員歴を有する満37歳以下の日本神経科学学会の会員を対象とする。

受賞候補者は、原則として単名とする。

3. (選考)

選考は公募による。

応募者の中から毎年5名以下を選考する。

奨励賞の選考は、奨励賞選考委員会が行う。選考委員会の構成は細則で定める。

4. (表彰)

日本神経科学学会大会において受賞者を表彰し、賞状及び副賞を贈呈する。

5. (受賞内容の発表)

受賞者は、受賞研究内容を「Neuroscience Research」誌に総説として発表する。

6. (改正)

本規定の改廃は日本神経科学学会理事会で行う。本則は平成13年4月1日より施行するものとする。

日本神経科学学会奨励賞選考細則

1. (選考の対象)

奨励賞は個々の論文を対象とするものではない。申請者の研究実績、研究構想と発展性を評価して選考する。但し、対象となる研究の主たる部分が日本国内であることが望ましいが、外国で進められた研究であっても応募者の主導による場合は検討の対象とする。

2. (会員歴)

学生会員であった期間は会員歴に含まれる。会費の納入が無かった期間は含まれない。

3. (選考委員会)

選考委員会は8名(委員長を含む)で構成する。

選考委員の任期は2年とする。

一年ごとに半数の委員が交代するものとする。

委員は、交代した年には、再任しないものとする。選考委員は指名委員会が指名し、理事会での承認を必要とする。

選考委員会委員長は、各年度ごとに、委員の互選により選出する。委員長の重任はしないものとする。

選考結果発表までは、選考委員の氏名は公表しない。

4. (選考)

選考委員は、応募のあった候補者が直接の研究指導を受けているか、または研究指導にあたった期間から3年以上経過していない場合には、当該候補者に関する採点・評価には加わらないものとする。

選考実施の細目は申請件数、内容などに応じて選考委員会で検討する。

5. (応募)

1) 応募者は申請書(所定の様式に従い、日本神経科学学会会員(学生会員、賛助会員を除く)による推薦のあるもの)、履歴書、主要業績リスト、申請課題に関する800字以内の抄録、申請課題に関連した論文(3編以内)の別刷(印刷中の論文については写し)各10部を日本神経科学学会奨励賞選考委員会に提出する。

2) 応募者の年齢は当該年の12月末日のものとする。

3) 公募の締切りは毎年5月31日以前とし、神経科学学会研究奨励賞選考委員会で定めた日をその年の神経科学ニュースと学会ホームページに掲載する。

6. (副賞の金額)

当分の間1件10万円とするが、状況により理事会の承認を得て改訂することができる。

7. (附則)

本則を平成13年4月1日より施行するにあたり、委員の半数は任期1年、他は任期2年とする。この場合の各委員の任期については、指名委員会が定める。

8. (改訂)なお、本細則は理事会で平成16年1月30日に改訂された。

日本神経科学学会奨励賞申請書

平成 年 月 日

日本神経科学学会奨励賞
選考委員会委員長殿

申請者氏名:

生年月日:

日本神経科学学会会員番号およびパネル(○で囲む):

パネル1(分子・細胞神経科学) パネル2(システム神経科学) パネル3(臨床・病態神経科学)

申請課題:

日本神経科学学会奨励賞に応募いたしたく、履歴書、主要業績リスト、申請課題に関する抄録、申請課題に関連した論文の別刷を添えて申請いたします。

署名

下記の理由により、申請者 _____ を日本神経科学学会奨励賞受賞者としてふさわしいものと考え推薦します。

推薦理由:

推薦者:所属・職・氏名印

研究室紹介 線虫は考える

九州大学大学院理学研究院生物科学部門
分子遺伝学研究室

石原 健

私は、12年に渡って勤務した国立遺伝学研究所から、この4月に九州大学理学研究院分子遺伝学研究室へ赴任致しました。国立遺伝学研究所では、構造遺伝学研究中心構造遺伝学研究室(桂勲教授)において、線虫 *Caenorabditis elegans* の行動をモデル系として、感覚情報処理の分子メカニズムの研究を行ってきました。九州大学においては、分子レベルだけでなく、回路レベルに研究を発展させていきたいと考えています。

分子遺伝学研究室は、長年大島靖美先生が主宰されてきました。大島先生は、森郁恵先生をはじめとする研究室の方々とともに、日本における線虫 *C.elegans* を用いた神経系の解析をリードされてきました。森先生が名古屋大学に移られたあとも、古賀誠人現助教授、藤原学助手、大学院生らとともに、体の大きさの制御機構や神経機能の解析を進めてこられました。本年3月で大島先生が退官なさり、その後任として私が赴任致しました。

現在の分子遺伝学研究室では、全員 *C.elegans* をモデルとした研究をすすめています。古賀助教授と化学受容の研究を進めている者4名、藤原助手と神経機能によるホメオスタシス制御の解析をしている者7名、私と情報処理の遺伝学的解析を進めている者3名になります。



私は、神経回路において情報処理がどのようにして行われているのか？またその分子基盤は何かといったことを明らかにしたいと考えて、線虫 *C.elegans* をモデル系として用いた研究をすすめています。*C.elegans* は、約300個の神経細胞からなるコンパクトな神経回路の全構造が明らかにされているほか、行動測定も容易で、遺伝学的な解析も適用できるなど、分子・神経回路・行動のそれぞれのレベルを結びつけて解析するのに適したモデル生物です。一方で、比較的単純な行動しかしないため、認知や思考といったヒトの高次脳機能の解析に直接結びつくような研究は難しいとも考えています。しかし、このような高次脳機能も情報処理の積み重ねであると考え、*C.elegans* を使って明らかにするような微小な神経回路における情報処理のメカニズムは、高次脳機能を解析する上での重要な基盤となると考えています。また、線虫は、進化的に古い生物であることから、実際には神経回路でかなり複雑な情報処理を行って、環境の変化などを生き抜いてきたのではないかと、そして複雑な現象ほど単純な系で調べることで問題を解く糸口が見つけやすくなるのではないかと考えています。

私たちの研究室では、*C.elegans* の特徴を生かして、行動やホメオスタシスの分子遺伝学的な解析を進めていきたいと考えています。新しい行動測定系を確立して、複雑な情報処理を分子レベルで解析することを目指しています。さらに、イメージング技術を組み合わせて、神経回路での活動を可視化することによって、情報処理そのものを遺伝学の対象にしていきたいと考えています。もっとも解析が進んでいるモデル生物の1つである *C.elegans* でさえ、実際に何をしているのか分からない遺伝子が多いことを考えると、測定系と注目する表現型を工夫すれば、面白い現象がたくさん眠っているに違いありません。そして、新しい遺伝子、新しいメカニズムの発見につなげていきたいと考えています。

私は、これまで大学院生としてあるいは助手として、自分の研究を自由にさせて頂いてきました。これからも、謙虚に生物を観察し考えるとともに、研究室のメンバーと切磋琢磨して、ともに良い研究をしていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願い致します。

INFORMATION

シンポジウム・研究会



国立精神・神経センター
神経研究所
COE 国際シンポジウム
「心をみる・心を知る」

"From genes to mind: New insight into
neural network and its dysfunction"

日時:

平成 16 年 12 月 15 日(水)10:00 ~ 17:00

12 月 16 日(木) 9:30 ~ 17:00

会場:センチュリーハイアット東京 (B1F:
会議室)

東京都新宿区西新宿 2-7-2

電話(代表)03-3349-0111

<http://www.centuryhyatt.co.jp>

予定講演者(順不同、敬称略)

P.E.Roland (Karolinska Institute), G.R.Fink
(RWTH Aachen Univ.), C.G.

Gross (Princeton Univ), R.J. Wenthold (NIH),
O. Stork (Magdeburg Univ),

丹治 順(東北大学)、木村 實(京都府立医
大)、川島隆太(東北大学)、八木 健(大阪大)、
曾良一郎(東北大)、山元大輔(早稲田大)

セッションはすべて英語でおこなわれます。

参加費:無料(事前登録を行ってください)

事前登録及び問い合わせ先:

konferenz Co., Ltd.(中島知子)

nakajima@konfrnz.com

〒150-0012

東京都渋谷区広尾 3-1-5 イーストコ
ート 201

Phone:03-5774-1059

Fax :03-5774-1079



脳と心のメカニズム 第5回冬のワークショップ

「Statistical Modeling of the Brain」を開催致
します。講演順やタイトル等は変わることが
ありますので、下記の web をご参照下さい。
皆様のご参加をお待ちしております。

[http://kussharo.complex.eng.hokudai.ac.jp/
rusutsu2005/](http://kussharo.complex.eng.hokudai.ac.jp/rusutsu2005/)

日程:平成 17 年 1 月 11 日(火)~ 13 日(木)

場所:ルスツリゾート 北海道蛇田郡留寿都村
字泉川 13

ポスター発表申込締切:平成 16 年 12 月 17 日(金)

参加・宿泊申込書締切:平成 16 年 12 月 24 日(金)

主催:

文部科学省特定領域研究(C)先端脳(B02, B03 班)

理化学研究所脳科学総合研究センター

ATR 脳情報研究所

科学技術振興調整費

日本神経回路学会

21 世紀型革新的先端ライフサイエンス技術開
発プロジェクト

21 世紀 COE プログラム「全人的人間科学プロ
グラム」

後援:科学技術振興機構 CREST「脳を創る」領域
科学技術振興機構 CREST「脳を知る」領域

■ 1 月 11 日(火)

Special Session 1:Statistical Model of the
Brain 【座長:甘利俊一】

18:00-19:00

System model for cerebrum cortex

Suzanna Becker (McMaster University,Canada)

19:00-20:00 Statistical modeling of the brain
講師交渉中

20:00-21:00 Pre-attentive vision

Zhaoping Li (University College
London, UK)

21:00-23:00 ポスターセッション

■ 1 月 12 日(水)

9:00-14:00 研究討論

Topics Session: 【座長:藤田一郎】

14:00-15:00 暗闇でサルを育てる(仮)

杉田陽一(産業技術総合研究所)

15:00-16:00 文章を理解している時、していない時の脳活動(仮)

北澤 茂 (順天堂大学)

16:00-17:00 知覚の交代時間の離散性(仮)

村田 勉(通信総合研究所)

20:00-22:00 ポスターセッション

■ 1月13日(木)

Special Session 2:発達の行動現象と神経機構

【座長:大森隆司】

9:00-10:00 幼児の言語発達における行動現象
～言語獲得におけるプロソディの役割～

馬塚れい子 (理化学研究所)

10:00-11:00 自閉症と前頭葉機能障害

梅田 聡 (慶應義塾大学)

11:00-11:20 coffee break

11:20-12:20 臨界期のしくみ

ヘンシュ貴雄 (理化学研究所)

神奈川科学技術アカデミー 教育講座 平成16年度第IV期 受講生募集



<ポストゲノム医科学・プラットフォーム 技術コース>

■カリキュラム編成者

東京大学新領域創成科学研究科

教授 医学博士 菅野 純夫

東京都臨床医学総合研究所

室長 理学博士 正井 久雄

東京大学医科学研究所

助教授 医学博士 渡辺すみ子

■コースの特色・ねらい

このコースでは、ポストゲノム時代の医科学研究を支える技術群を、プラットフォーム技術ととらえ、現在、第一線で技術革新に携わっている新進気鋭の研究者の方々に、その実際を解説していただきます。内容としては、現在の主戦場である SNP 解析や DNA チップ解析に加え、次期的主戦場となるプロテオームやイメージングを用意しました。また、モデ

ル生物も、ゲノムを基盤とすることで、新しい医学・生物学研究用ツールとして装いも新たに登場しています。「お話」として聞くことの多いプラットフォーム技術を、現実のものとして聞くことができます。同時に、技術革新の第一線にいる研究者が肌でとらえた今後の展望も、聞くことが可能です。

■講義日 H17、2/15 2/21 2/23 2/24 計4日間

■主なカリキュラム内容

【ゲノム医科学】(ゲノム情報に基づくオーダーメイド医療/ゲノム解析と疾患/発現プロファイルとゲノム診断)

【分子解析技術(プロテオーム含む)】(ゲノム医科学とプロテオーム解析/プロテオーム解析と質量分析/ケミカルジェネティクス)

【機能解析と立体構造】(蛋白質立体構造/分子機能解析/分子イメージング)

【ポストゲノム医科学におけるモデル生物システム】(ゼブラフィッシュ/線虫/マウス)

■講義場所

東京大学医科学研究所内講義室(東京都港区白金台)

区分	一般	KAST 法人賛助会員 (事業所単位) 神奈川県内中小企業 ※神奈川県内中小企業とは、本社または事業所が神奈川県内にあり、資本金が3億円以下 または企業全体の従業員が300人以下である企業をさします。
全日程受講	57,000 円	45,600 円
1日単位の受講料	18,000 円	

■申込締切日 平成17年1月25日(火)

■募集人員 25名

※1日単位の受講は応募者数が定員を超えた場合、全コース受講される方を優先し選考します。

※やむを得ない事情により、日程・内容等の変更をする場合があります。

※受講料の中には消費税が含まれています。

※KAST 法人賛助会員は、登録されている事業所単位です。

※神奈川県内中小企業とは、本社または事業所が神奈川県内にあり、資本金が3億円以下または企業全体の従業員が300人以下である企業をさします。

問い合わせ先:

財団法人 神奈川科学技術アカデミー
教育交流部 教育研修課

〒 213-0012

神奈川県川崎市高津区坂戸 3-2-1 KSP 西棟 6階

Tel 044(819)2033 Fax 044(819)2097 E-mail:

ed@kast.or.jp http://www.kast.or.jp

<シグナル伝達と疾患コース>

～シグナル伝達の異常と 各種疾患発症の
因果関係～

■カリキュラム編成者 東京都臨床医学総合
研究所研究統括顧問 医学博士 新井 賢一
東京大学医科学研究所 教授 医学博士 北村
俊雄

東京大学医科学研究所 所長 理学博士 山
本 雅

■コースの特色・ねらい

最近の研究の目覚ましい進歩により、シグナル
伝達分子を標的とした薬剤を理論的かつ効率
よく開発することが可能になりつつあります。
それぞれの分野の専門家に主に以下の2点に
ついて分かりやすく解説していただき、新し
い分子標的療法の開発へのヒントが得られる
ような場を提供いたします。

1)シグナル伝達系に起こるさまざまな破綻が
生体に引き起こす病的状態について。

2)さまざまな疾患における治療標的となりう
る分子の解説。分子標的薬剤が既に開発され
ている場合はその紹介と今後の課題。まだ、
開発されていない疾患に関しては、分子標的
となりうる分子について。

■講義日 H 17、3/2 3/3 3/10 3/23 計4日間

■主なカリキュラム内容

【シグナル伝達の総論、方法論、疾患との関
連】(シグナル伝達の分子生物学／TOF/MAS
によるシグナル伝達系の解析／MAPキナー
ゼと疾患)

【免疫・血液とシグナル伝達】(結核菌ペプチド
による免疫制御／自然免疫と自己免疫疾患／白
血病細胞のシグナル伝達と創薬ターゲット)

【成人病・癌とシグナル伝達】(糖尿病とシグナ
ル伝達／癌と細胞周期／虚血のシグナル伝達)

【幹細胞・神経とシグナル伝達】(幹細胞制御の
シグナル伝達と分子標的／蛋白質分解のシグ
ナル伝達と神経変性疾患／造血幹細胞のシグ
ナル伝達と造血)

■受講料

区分	一般	KAST 法人賛助会員 (事業所単位) 神奈川県内中小企業 *神奈川県内中小企業 とは本社または事業所 が神奈川県内にあり、資 本金が3億円以下または 企業全体の従業員が 300人以下である企業 をさします。
全日程受講	56,000 円	44,800 円
1日単位の受講料	18,000 円	

■申込締切日 平成 17 年 2 月 9 日(水)

■募集人員 25 名

*1日単位の受講は応募者数が定員を超えた
場合、全コース受講される方を優先し選考し
ます。

*やむを得ない事情により、日程・内容等の
変更をする場合があります。

*受講料の中には消費税が含まれています。

*KAST 法人賛助会員は、登録されている事
業所単位です。

*神奈川県内中小企業とは、本社または事業
所が神奈川県内にあり、資本金が3億円以下
または企業全体の従業員が300人以下である
企業をさします。

問い合わせ先:

財団法人 神奈川科学技術アカデミー 教育交
流部 教育研修課

〒 213-0012

神奈川県川崎市高津区坂戸 3-2-1KSP 西棟 6階

Tel 044(819)2033 Fax 044(819)2097

E-mail: ed@kast.or.jp http://www.kast.or.jp

千里ライフサイエンス
シンポジウム

「RNA 機能研究の最先端」

日時:平成 17 年 2 月 25 日(金)10:00 - 17:00

場所:千里ライフサイエンスセンタービル 5階
ライフホール

着眼点:セントラルドグマにおいて RNA は、
遺伝子(保存性分子)とタンパク質(機能性分子)
の単なる仲介物質であった。

近年、複雑なゲノム情報発現ネットワーク研究が進むにつれ、その制御因子として本来RNAが持つ重要性が次第に浮上してきている。

RNA機能出力の制御、RNAが携わる制御機構、機能性RNAの働きに依存する生命現象等に焦点を当て、国際的レベルで研究を展開されている演者に最新の話題を提供していただく。

コーディネーター:

京都大学ウイルス研究所 教授 大野 睦人
徳島大学ゲノム機能研究センター

助教授 塩見 美喜子

プログラム:

- ・生殖細胞の形成に関わるRNA

自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター 基礎生物学研究所 教授 小林 悟

- ・機能性RNAにおける転写後修飾の役割と疾患との関係

東京大学大学院 工学系研究科 化学生命工学専攻 助教授 鈴木 勉

- ・植物のRNAi経路:RNA分解とクロマチン修飾

奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス研究科 教授 島本 功

- ・ショウジョウバエにおけるRNAi/miRNA遺伝子発現抑制機構の作用機序

徳島大学 ゲノム機能研究センター 分子機能解析分野 助教授 塩見 美喜子

- ・RNA核外輸送の多様性とその制御機構

京都大学 ウイルス研究所 情報高分子化学研究分野 教授 大野 睦人

- ・IRES依存的翻訳開始とその制御

東京大学大学院 医学系研究科 微生物学講座 教授 野本 明男

参加費:

会員(大学・官公庁職員、当財団の賛助会員):

3,000円 非会員:5,000円、学生:1,000円

定員:300名

申込方法:参加申し込みは以下の手順にしたがって行ってください。

(1)氏名、勤務先、〒所在地、電話およびFAX番号を明記の上、郵便、FAXまたはE-mailで下記宛お申し込み下さい。

(2)事務局より受付の通知を返送いたしますので、そこに記載した振込先口座に参加費をお振込みください。

(3)入金を確認後、通常1週間以内に領収書兼参加証をお届けいたします。

申込締切:平成17年2月18日(財団必着)

申込先:(財)千里ライフサイエンス振興財団
セミナーS14係

〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2 千里ライフサイエンスセンタービル8階

TEL:06-6873-2001 FAX:06-6873-2002

E-mail:tnb-lsf@senri-lc.co.jp

(注:lsfは「エルエスエフ」、lcは「エルシー」)

主催:財団法人千里ライフサイエンス振興財団
協賛:株式会社千里ライフサイエンスセンター

千里ライフサイエンス

セミナー



「生体・細胞シミュレーションの実用化に向けて」

日時:平成17年3月7日(月) 13:00～17:30

場所:千里ライフサイエンスセンタービル5階
ライフホール

主催:財団法人千里ライフサイエンス振興財団
協賛:株式会社千里ライフサイエンスセンター

着眼点:生体や細胞の代謝データをコンピュータで統合・シミュレーションし、全体の振る舞いを再現・予測する。そのようなシステム生物学の最先端技術は、いよいよ医療や食品産業への実用化が視野に入ってきた。

コーディネーター:

慶應義塾大学先端生命科学研究所 所長

ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ

(株) 取締役 富田勝

京都大学大学院医学研究科生体制御医学講座
教授 野間昭典

プログラム:

メタボローム解析と代謝シミュレーションの
産業応用

慶應義塾大学先端生命科学研究所 所長

ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ

(株) 取締役 富田勝

ダイナミック細胞モデルの実用性、心筋細胞 (Kyoto) モデル

京都大学大学院医学研究科 教授 野間昭典
心筋細胞における興奮-収縮-エネルギー代謝
関連シミュレーション

京都大学大学院医学研究科 助手 松岡達
メタボローム解析技術と代謝シミュレーション
による新しい細胞機能制御機構の探索

慶應義塾大学医学部 教授 末松誠
心臓興奮の神経制御シミュレーション

大阪大学大学院医学系研究科 教授 倉智嘉久

生体シミュレーションの医療への応用: E-C
ELLによる糖尿病病態シミュレーションモ
デルの構築と人工知能型糖尿病診療支援シ
ステムの開発状況

大阪府立成人病センター臨床検査科 内分
泌代謝内科部長 中島弘

参加費(講演要旨集含む):

3,000 円(会員: 大学・官公庁職員、財団の賛助
会員); 5,000 円(非会員); 1,000 円(学生)

定員: 300 名

申込方法: 氏名、〒所在地、勤務先、所属、電
話および FAX 番号を明記の上、郵便、FAX
または電子メールで下記宛にお申込下さい。
受付の通知を返送いたしますので、通知書に
記載した振込先口座に参加費をお振込み下さ
い。入金を確認後、領収書兼参加証を送付い
たします。

申込先: (財) 千里ライフサイエンス振興財団セ
ミナー(U4)係

〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル8F

TEL: 06-6873-2001 FAX: 06-6873-2002

E-mail: dnp-lsf@senri-lc.co.jp

(注: lsf は「エルエスエフ」、lc は「エルシー」)



理研 BSI サマープログラム

2005 のお知らせ

理化学研究所脳科学総合研究センター (BSI)
では、2005 年度も脳科学に関心をもった国内
外の若手研究者 (大学院生、博士研究員など)
を対象としたサマープログラムを開催いたし
ます。詳細をホームページに掲載しておりま
すので、関心のある方はぜひご覧ください。
ご応募をお待ちしております。

サマープログラムには、2ヶ月間 BSI のひと
つの研究室に滞在し研究を実体験するイン
ターンシップコースと、2週間のレクチャー
コースという2つのコースがあります。今年
のレクチャーコースは、” Neurobiology of
Mental Disorders and the Mind ” というテーマ
で開催されます。

開催期日:

< インターンシップコース >

2005 年 6 月 27 日 ~ 8 月 27 日

< レクチャーコース >

2005 年 7 月 12 日 ~ 7 月 22 日

講師

Nancy C. Andreasen (Univ. of Iowa)

Ursula Bellugi (Salk Institute)

Douglas Blackwood (Univ. of Edinburgh)

Patricia S. Churchland (UCSD)

Chris D. Frith (University College London)

Uta Frith (University College London)

Michael S. Gazzaniga (Dartmouth College)

RenÈ Hen (Columbia Univ.)

Nobumasa Kato (Univ. of Tokyo)

Tadafumi Kato (RIKEN BSI)

James F. Leckman (Yale Univ.)

Charles B. Nemeroff (Emory Univ.)

Adrian Raine (Univ. of Southern California)

Tetsuya Suhara (Natl. Inst. Radiol. Sci.)

John E. Spiro (Senior Editor, Nature)

シンポジウム

Molecular Cascades of Schizophrenia (Itokawa M,
Miyakawa T, Yoshikawa T)

Neurobiology of Depression (Kunugi H, Okamoto
Y, Yamada M)

場所: 理化学研究所 脳科学総合研究セン
ター (埼玉県和光市)

申込締切: 2005 年 2 月 28 日 (必着)

参加申し込み・問い合わせ先:

〒351-0198

埼玉県和光市広沢 2-1

理化学研究所 脳科学総合研究センター
サマープログラム実行委員会

<http://www.brain.riken.jp/summer.html>

FAX 048 (462) 4914

E-mail: info@summer.brain.riken.jp

研究助成



2005年度 女性科学者に
明るい未来をの会
「猿橋賞」および「奨励賞」
候補者募集

女性科学者に明るい未来をの会より、「猿橋賞」および「奨励賞」候補者の推薦を依頼します。下記の要領で応募して下さい。募集内容、応募用紙などは各学会事務局に送付してありますが、電子メールでお申出頂ければ、様式を添付ファイルでお送りします。また、<http://www.saruhashi.net/> からダウンロードできます。

1. 猿橋賞

対象:推薦締切日に50才未満で、自然科学の分野で、顕著な研究業績を収めた女性科学者
表彰内容:賞状、副賞として賞金30万円、毎年1件(1名)

2. 奨励賞

対象:推薦締切日に35才未満で、自然科学の分野で、優れた研究業績を挙げ、将来の発展が期待される女性研究者

表彰内容:賞状、副賞として賞金10万円、毎年1件(1名)

3. 締切日:2004年11月30日

応募方法:所定の用紙に、推薦者、候補者略歴、推薦理由、研究業績(猿橋賞は別刷り10編程度を添え)などを記入し、下記のあて先へ送付して下さい。

応募先:〒166-0002 東京都杉並区高円寺4-29-2-217 「女性科学者に明るい未来をの会」

電子メールによる問合せ先:
saruhashi2005@saruhashi.net



公益信託 時実利彦記念賞
平成17年度申請者の募集
について

当基金は、下記要項により17年度申請者の募集を致します。

記

1. 趣 旨

脳研究に従事している優れた研究者を助成し、これを通じて医科学の振興発展と日本国民の健康の増進に寄与することを目的とする。

2. 研究テーマ

脳神経系の統合機能及びこれに関連した生体の統合機能の解明に意義ある研究とする。

3. 研究助成金

「時実利彦記念賞」として賞状及び副賞(研究費)100万円を授与する。

4. 応募資格

原則として55歳以下とする。

5. 応募方法

所定の申請書に必要事項を記入し、主要論文のうち代表的なもの3篇以内の別刷一部を添付の上、下記事務局宛送付する。

- ・申込締切日 平成17年月10日(木) 必着
- ・申請用紙は、返信用定形封筒に80円切手を添付の上、下記事務局宛
- ・申請用紙は、日本神経科学学会ホームページ又は返信用定形封筒に80円切手を添付の上、下記事務局宛請求する。

公益信託時実利彦記念脳研究助成基金事務局

〒100-8212 東京都千代田区丸の内1-4-5

三菱信託銀行リテール受託業務部

受託相談グループ 担当 小林

公 募

口腔機能学講座・口腔生理
細胞情報学教室 助教授候
補者の公募

募集人員 助教授 1 名

所属:北海道大学大学院歯学研究科口腔機能学講座・口腔生理細胞情報学教室 (旧口腔生理学講座)

専門分野:生理学・口腔生理学(分子生物学, 神経生理学・脳科学、顎顔面発生を含む)

応募資格 学位(博士)取得者。顎口腔歯系に関連した領域での発生・分子細胞機能・咬合咀嚼・嚥下消化吸收・循環微小血流・感覚運動及び脳高次機能等の分野の生理機能に重点をおいた研究・教育を大学院及び学部において積極的に進めることができ、教育経験のある方が望ましい。英文筆頭論文 2 編以上。

着任時期:平成 17 年 4 月予定

提出書類: (1)履歴書(写真貼付)(2)研究業績目録 (3) 主要論文別刷(4)共同研究・研究助成金の受領の状況 (5)教育・研究に対する考え方(2000 字程度)(6)応募者について問合わせのできる方(2 名)の住所・氏名・連絡先・勤務先 又は推薦書(2 通)(*なお応募書類は返却いたしません)

公募締切:平成 16 年 12 月 15 日

書類提出・問い合わせ先:

〒 060-8586 札幌市北区北 13 条西 7 丁目 北海道大学大学院歯学研究科・口腔機能学講座・口腔生理細胞情報学教室 赤池 忠

電話 011-706-4227

電子メール akaiket@den.hokudai.ac.jp

その他:選考の過程において、ご来学の上面談、ご講演をお願いすることがあります。

戦略的創造研究推進事業
(CREST)研究員募集

自然科学研究機構・生理学研究所・発達生理学研究室・認知行動発達機構研究部門(教授:伊佐正)では、科学技術振興事業団(JST)戦略的創造研究推進事業(CREST)「脳の機能発達と学習メカニズムの解明」の平成 16 年度採択課題「神経回路網における損傷後の機能代償機構」の開始にあたり、ポスドク研究員を募集します。

熱意ある方々の応募をお待ちしています。

研究課題:サル(マカクザル)を用いた手指の巧緻運動・眼球運動(サッケード)の制御機構に関する行動学的・電気生理学的研究および PET を用いた脳賦活イメージング研究

募集人数:博士号取得者 2-3 名 (サルを用いた実験研究の経験があり、平成 17 年 4 月に着任していただける人が望ましい)。

待遇:雇用期間は当面 6 ヶ月の雇用契約。その後 1 年後ごとの契約更新もあり。給与は JST の基準に基づく。(社会保険有、通勤手当支給) 委細面談

研究場所:自然科学研究機構生理学研究所(愛知県岡崎市)ないしは浜松ホトニクス中央研究所(静岡県浜北市)

応募要領:平成 16 年 12 月 15 日までに履歴書(業績録含み)、推薦書を下記住所までお送りください。書類審査の上、必要に応じて面談させていただきます。

応募・問合せ先:

〒 444-8585 岡崎市明大寺町字西郷中 38

自然科学研究機構生理学研究所・発達生理学研究室・認知行動発達機構研究部門

伊佐 正 (電話 0564-55-7761、FAX 0564-55-7766、電子メール:tisa@nips.ac.jp)



東北大学大学院
医学系研究科
附属創生応用医学研究
センター
形態形成解析分野
CREST 研究員・技術員募集

当研究室では、平成 16 年度 CREST「脳と学習」プロジェクト「脳の発達過程におけるニューロン新生の分子基盤とその精神機能への影響」に従事する研究員および技術員を募集します。とくに研究員には、新しい学際的な領域に興味のある、協調性豊かな人を求めます。

【研究内容】

当研究室に所属して頂き、ラットおよびマウスを用いた以下のような研究テーマに携わって頂きます。

- (1) 生後脳ニューロン新生に対する不飽和脂肪酸の効果(海馬スライス培養、ニューロスフェア等)
- (2) ニューロン新生がプレパルス抑制に与える影響(行動解析、神経回路の解析等)
- (3) ニューロン新生に対する栄養因子の効果(in vivo BrdU 標識等)
- (4) ニューロン新生因子の網羅的解析(マイクロアレイ等)

【応募資格】

研究員:平成 16 年 11 月 1 日の時点で博士号取得(見込み)、35 歳以下

技術員:修士、学卒以上、35 歳以下。

【任用期間】

平成 17 年 1 月 1 日以降、原則として平成 20 年度末まで。

【提出書類】

研究員は以下のすべて。技術員は(1)、(3)、(4)(あれば)。

- (1) 履歴書
- (2) 研究業績リストおよび主要論文の別刷
- (3) 自己アピール作文
- (4) 推薦状、もしくは照会先の氏名、所属、電話番号、E-mail アドレス(なるべく 2 名以上)

【募集期間】

適切な人材が集まるまで随時受け付け

【申込・問合】

〒 980-8575 仙台市青葉区星陵町 2-1

東北大学・大学院医学系研究科・附属創生応用医学研究センター・形態形成解析分野 大隅典子教授

TEL:022-717-8201

E-mail: osumi@mail.tains.tohoku.ac.jp

【研究室HP】 http://www.med.tohoku.ac.jp/~dev_neurobio/index.html



電気通信大学電気通信学部
量子・物質工学科 教員募集

1. 募集人員: 教授または助教授、1 名
2. 所属: 国立大学法人電気通信大学 電気通信学部 量子・物質工学科 生命情報工学講座
3. 専門分野等: 当大学にふさわしい生命情報科学(例えば、バイオインフォマティクス、生命科学と計算機科学との融合を目指した分野など。)の実験系または理論系の研究を展開するのに意欲的な方。全学科の初学年学生向け講義「生物学」の他に、複数の講義・演習・実験等を学部学生・大学院生向けに担当していただきます
4. 着任予定日: 2005 年 4 月 1 日以降
5. 応募資格: 博士の学位を持っておられる方で大学院生の研究指導が担当可能な方。50 歳前後、あるいはそれより若い方。
6. 必要書類:
 - 履歴書(写真添付)
 - 研究業績リスト
 - 主要論文別刷(コピー可)5 編以内
 - これまでの研究概要(和文 1000 字以内)
 - 引用された新聞・雑誌の記事などがあれば添付してください。
 - 今後の研究計画(和文 1000 字以内)
 - 応募者が現在大学などに所属している場合は、過去 5 年間の外部資金導入状況(科学研究費補助金、奨学寄付金など)
 - 教育経験の概要
 - 教育に対する抱負(和文 1000 字以内)
 - 社会貢献に対する抱負(和文 500 字以内)
 - 海外 4 名、国内 4 名の照会者候補のリスト

(氏名、住所、所属、職名、e-mail アドレス、国内の方は電話番号)

7. 応募締め切り: 2004 年 12 月 20 日(必着)

8. 書類提出・問い合わせ先:

〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1

電気通信大学 量子・物質工学科 学科長 中村整

電話:0424-43-5451

電子メール: tad@pc.uec.ac.jp

9. その他:封筒に「生命情報工学講座教員応募」と朱書し、簡易書留で送付してください。

応募書類の返還を希望する場合は、返信用封筒(宛先を記し、切手を貼ることを同封してください。学科の概要についてはウェブ上で <http://www.pc.uec.ac.jp/> を参照してください。



琉球大学形態機能医科学 講座生理学第二分野 助教授候補者の教員募集

募集人員 助教授(もしくは講師・助手)1名

所属 琉球大学形態機能医科学講座生理学第二分野(旧生理学第二講座)

専門分野 生理学(神経生理学・神経科学の分野が望ましい)

応募資格 学位(博士)取得者。生理学の分野における研究・教育を大学院及び学部において積極的に進めることができ、教育経験のある方が望ましい。

着任時期 平成17年4月予定

提出書類

(1)履歴書(写真貼付)

(2)研究業績目録、およびこれまでの研究概要(1000字程度)

(3)主要論文別刷

(4)共同研究・研究助成金の受領の状況

(5)教育・研究に対する考え方・抱負(2000字程度)

(6)推薦書、もしくは応募者について問い合わせのできる方の住所・氏名・連絡先・勤務先(※なお応募書類は返却いたしません)

募集締切 平成17年1月15日

書類提出・問い合わせ先

〒903-0215 沖縄県中頭郡西原町字上原 207 番地

琉球大学医学部形態機能医科学講座生理学第二分野 酒井哲郎

電話 098-895-1111

e-mail: tsakai@med.u-ryukyu.ac.jp



研究員募集

理化学研究所脳科学総合研究センター小幡研究ユニットは研究員(学位取得者)または研究補助員(テクニカルスタッフ)を1名募集します(年齢不問)。

研究内容:GABAの役割を明らかにするための生化学的解析(GABAの定量や蛋白質の解析)または組織学的実験(in situハイブリダイゼーションなど)。

(分子生物学的解析、電気生理学の実験は担当しない)

任期:1年契約で3年間まで。

給与:当センター規定による。

所在地:埼玉県和光市広沢2-1

問合せ、連絡先:電子メール obata@brain.riken.jp で小幡邦彦まで。希望者は履歴書、業績目録(またはこれまでの研究経験を記したもの)をお送り下さい。



京都大学大学院理学研究科 生物科学専攻生物物理学 教室教員の公募

公募人員 機能統合学講座の教授または助教授1名。

研究分野 生物科学に関する理論を中心とした研究。学部教育として、分子レベルでの生物科学の講義とコンピューターを用いた演習を担当。学部・大学院で専門分野の講義・セミナー・実習の担当。

提出書類 (1)職種の指定 (2)履歴書 (3)論文リスト (4)主要論文の別刷 10編以内 (5)これまでの研究の概要および今後の研究・教育についての抱負 (6)意見を尋ねられる方の氏名(2名)(封筒に「機能統合学講座教員応募書類在中」と朱書)

締切期日 平成17年1月21日(金)必着
 書類提出・連絡先 〒606-8502 京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院理学研究科
 生物科学専攻生物物理学教室
 専攻長 平野丈夫
 Tel 075-753-4237、Fax 075-753-4229
 e-mail: thirano@neurosci.biophys.kyoto-u.ac.jp



徳島文理大学・香川薬学部・創薬学科・分子薬理講座で助手1名募集致します。大学院生(修士、博士課程)も募集中。

香川薬学部は今年4月に増設された新しい薬学部です。講座は教授1名、助教授1名、助手2名で構成されています。

<< 研究内容 >>

-脳神経疾患の予防、診断、治療薬の開発に向けた基盤研究-

- 1.「中枢神経ネットワークの機能異常における分子機構の解明」
- 2.「小動物磁気共鳴イメージング(MRI)解析法による脳内特定分子の可視化」

[勤務地] 香川県さぬき市志度1314-1 徳島文理大学・香川薬学部

[身分] 助手

[応募資格] 大学院(医・薬・理・農・工系、博士、修士)終了または終了見込み。薬学部出身者は薬剤師免許所得者を希望。スタッフ全員と協力して研究を意欲的に推進できる方を希望します。

[採用期間] 平成17年4月1日より勤務して頂きます。

[締切] 適任者がみつき次第締切ります。(最終:平成16年12月20日)

[提出書類] 履歴書、研究業績、これまでの研究内容の要約、今後の抱負について電子メールまたは郵送にて提出して下さい。(できるだけ電子メールをお願いします。)

[大学院生] 大学院生(修士、博士課程)も募集中です。希望者は直接連絡して下さい。

《問合わせ、書類提出先》

〒769-2193 香川県さぬき市志度1314-1
 徳島文理大学・香川薬学部・創薬学科・分子薬理学講座、伊藤康一
 電話:087-894-5111 (内線8403)
 E-メール: itoh@kph.bunri-u.ac.jp
 URL: http://kp.bunri-u.ac.jp

そ の 他



学生会員の再登録について

日本神経科学学会会則に準じ、平成17年1月以降も学生会員に該当する方は氏名、会員番号、所属、E-mail addressを明記の上、在学証明書(学生証のコピーも可)を平成16年11月30日(必着)迄に下記へ、郵送或いはファクスにてご送付下さいますようお願い致します。登録いただいた方は平成17年も学生会員として会費を請求させていただきます。なお、登録作業の関係上、郵送でお送り頂く在学証明書もしくは、学生証のコピーはA4の用紙をご使用の上、同一の用紙の余白に、氏名、会員番号(お分かりにならない場合は、下記までお問い合わせください)、所属、E-mail addressの明記をお願いいたします。

平成17年3月末に卒業・修了等により学生会員の対象からはずれる予定の方につきましては、今回ご登録いただきました場合は、平成17年12月末日まで学生会員としての扱いとなります。但し、平成17年7月26日～28日に予定されております第28回日本神経科学大会では正会員としての扱いになりますことを御了承下さい。もし、平成17年4月以降正会員への変更を希望される場合は、その旨を会員担当係りへご通知いただければ差額を支払っていただいた上、そのように変更させていただきます。

なお、今回学生会員の登録をお忘れになりますと、平成17年1月以降は自動的に正会員の会費を請求されることとなりますので、お忘れ

なきようよろしくお願い致します。

【郵送先・問い合わせ先】

〒113-0033 文京区本郷四丁目2-5
本郷四郵便局留め 日本神経科学学会 山根慶子
TEL FAX 03-3813-0272、
E-MAIL ADDRESS jnss@mb.newweb.ne.jp



重要なお知らせ
—電子メールによる
お知らせについて—

これまで本学会では電子媒体を用いた会員へのサービスの向上に努めて参りましたが、本年はさらにこれを推し進めるべく、広報委員会では下記のようなサービスの開始の準備を進めております。

- 1 入退会を専用ウェブサイトから行えるようにします。
- 2 入会(退会)承認と UMIN への登録が同時に行えるようにします。
- 3 住所変更などを専用ウェブサイトから行えます(UMIN のホームページ(www.umin.ac.jp)で ID とパスワード(PW)を使用すれば今でもできます)。
- 4 会員名簿に専用ウェブサイトからアクセスできるようにします。

将来的には

- 1 選挙の電子化
- 2 過去の大会抄録のウェブ上での会員への公開なども計画しております。

これらを実現するために今後は色々な局面で UMIN の ID と PW が必要となります。皆様方の ID と PW は以前に書面で連絡を差し上げておりますが、念のため再度電子メールで(皆様が本学会に登録しておられるアドレスへ)一度だけお送りする予定です。本学会からの電子メールは UMIN のアカウント宛にのみお送りしますので、

- ・ UMIN の ID と PW を用いて皆様の電子メールソフトの設定を変更していただくか、
- ・ UMIN のサイトにアクセスしていただき、転送設定をしていただく必要があります。

その方法は次号でもお知らせしますが、本学会のウェブサイト(<http://www.jnss.org/page/umininfo.html>)にも掲載しております。

皆様方にはお手間をおかけしますが、これにより学会運営のコストの低減と効率化に加え、情報伝達時間の短縮など会員サービスの向上を図ることができますので、どうかご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

編集後記

度重なる台風の襲来の後には新潟県中越地震という予期せぬ大災害が発生してしまいました。被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。暗いニュースの中でも、土砂崩れにまきこまれた自動車から2歳の男の子が92時間ぶりに救出されるという明るい知らせもあり、自然の力の前に人間の無力を感じさせられる一方で、生命力のたくましさをも痛感しております。さて、ようやく秋らしくなってきた今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。先日盛会のうちに Neuro2004 が終わりましたが、既に Neurosci 2005 の準備が大会長の宮下先生を中心に着々と進められています。既にプレナリーレクチャーなどの大会の概要が決まり、現在シンポジウムの提案を公募中です。受付期日は2004年12月1日までですが、会員の皆様の積極的なご提案をお願いいたします。このニュースがお手許に届く頃には朝夕の冷え込みが増し、日本海側では暗い季節を迎えていると思いますが、皆様どうかご自愛ください。(狩野記)

発行：広報委員会
村上富士夫(委員長)
狩野方伸(ニュース編集小委員会委員長)
蔵田 潔(電子化推進小委員会委員長)
白尾智明(ホームページ担当小委員会委員長)